

式文

○○○○株式会社取締役、○○○○株式会社取締役社長故 ○○○○○殿の御靈前に謹んで告別のことばを申し上げます。

あなたは去る○月下旬心臓発作のため入院せられたのであります。日頃は頑健そのもののようなあなたに接しておりました私どもは、入院なさったおりにも、遠からずご回復になるものとばかり信じておりました。そんな矢先、突然のあなたの訃報に接し、ただただ驚き、呆然としてしまい、どうしていいのかなすところもさだまらぬありました。

御発病以来、日夜看病に没頭してこられた奥様はじめ御遺族の御心中はいかばかりかと、お察しするに余りあるものがあり、お慰めする言葉もございません。

あなたは、昭和○年○月○日卒業され、すぐに○○株式会社に入社され、○○○○○○製造所労務課に勤務されました。間もなく本社労政部より○○○○に移られその後、○○製造所、○○○所と一貫して労務畠を歩まれ、わが国の産業界において、企業経営の基盤となる健全な労使関係の確立に尽力してこられましたが、その功績は多くの企業経営者がおしみない賞賛を送るところでございます。

昭和○年○月当社の前進である○○○株式会社に移られたのでありますが、昭和○年○月○○○○○が設立されると同時に人事部長に挙げられ、昭和五十三年には、内外の興望を担つて取締役に列せられました。

それ以来、積年の豊富なご経験と優れた識見をもつて経営の枢機に参画せられ、昭和○年には常務取締役○年○月には専務取締役に昇進され、そののち、平成○年○月には○○○○の取締役のまま○○○○の社長に就任せられたのであります。

あなたは、温厚篤実、悠揚迫らざる風貌と暖かい包容力をもつて人に接せられ会社の内外において、あなたに対する信望は厚いものがありました。

あなたが○○○○の社業の発展に寄与せられた御功績はまことに大なるものがありますが、特に○○○○のは発足よりこの方、実に二十年の長きにわたり一度として争議の発生を見たことがないという当社の誇りとする労使関係は、あなたが終始誠心誠意、事に当たり、情熱をこめて一途に労働条件の改善、社員の福祉向上に心を碎いてこられた賜物であります。

あなたは○○○○の社長に就任せられて以来、日夜経営に御苦心せられたのであります。が、昨年の後半頃よりは御努力が実を結んで業績もようやく好転し、黒字基調が定着しつつあり、加工品工場の増設計画等も緒につきつあります。現在、あなたは卒然として長逝されました。まことに痛惜の極みであります。

バブル崩壊後の厳しい状況下において、文字どおり会社の存亡を賭けてあなたと辛酸を分かち合つてまいつた私といたしましては、まことに片腕を失つた感じが致しております。しかしながら、あなたが最後まで思いを致された○○○○○○の事業は後に残りました私どもの手で守り、必ずや立派に発展させてゆく覚悟であります。
今後、奥様はじめ御遺族の皆様には私共として出来得るかぎりお力にならせて戴きましたく存じますので、なにとぞ御安心下さる様お願いいたします。
かぎりない惜別と哀悼の意をこめて、ここに○○○○の合同社葬の礼をもつてあなたをお送りいたします。
どうか安らかにお眠り下さい。

平成○年○月○日

葬儀委員長

○○○○株式会社

社長 ○○○○



東海典礼